

見える化シート

基準日

令和6年3月31日現在

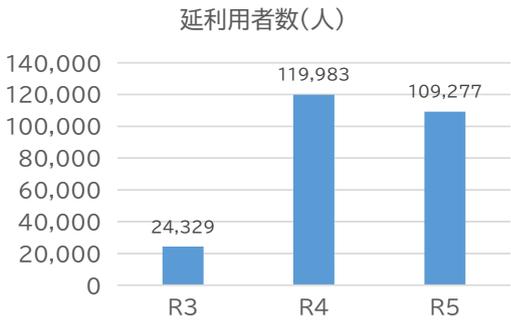
基本情報

施設名称	美術館	
所在地	八戸市大字番町10番地4	
所管部署	美術館	
設置の目的	美術品等の収集、保管及び展示並びに美術等に関する調査研究及び普及活動を行うことにより、市民の文化及び芸術の振興に資するとともに、文化芸術活動を通じた様々な出会い、学び及び交流の機会を提供し、新たな文化の創造と八戸市全体の活性化を図るための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	5,311.21	m ²	所有状況	市有地					
	用途地域	商業地域								
建物	建物名称	美術館								
	建築年月日	令和3年1月8日								
	延床面積	4,844.95	m ²	構造	鉄骨造	階数	地上	3	地下	-
	整備費用	3,339,650	千円	財産区分	行政財産					
	耐震診断	不要		診断結果	-					
運営	開館時間	10:00~19:00								
	休館日	毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始								
	開館日数(日)	R3	102	R4	311	R5	310			
	運営形態	直営								
利用	主な利用者	市民(全市的)		観光客		文化芸術団体				
	延利用者数(人)	R3	24,329	R4	119,983	R5	109,277			
	1日当たり利用者数(人)	R3	239	R4	386	R5	353			
	利用料金	入館料	無料(企画展観覧料は展覧会ごとに異なる)				貸館利用料	八戸市美術館条例による		

延利用者数(人)



年度	延利用者数(人)
R3	24,329
R4	119,983
R5	109,277

※令和3年11月3日開館

※利用料金の詳細については施設ホームページに掲載。

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	無	自動車	-		正職員	会計年度任用職員等
利用時間	-	原付・バイク	有			
入出庫時間	-	自転車	有		12	8
バリアフリーの状況					自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト対応トイレ		自家発電設備	再生可能エネルギー設備
○	○	○	○		○	-
災害指定避難						蔵書数(冊)
指定緊急避難場所					指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な火災	火山		
-	-	-	-	-	-	-

施設運営費の状況							(単位:千円)												
		令和3年度	地元 発注率	令和4年度	地元 発注率	令和5年度	地元 発注率												
支出	人に係る経費	93,553	/	96,436	/	106,791	/												
	企画運営費	36,877	26	72,012	65%	57,799	49%												
	施設の維持管理費	108,921	53%	140,408	57%	152,699	61%												
	うち、光熱水費	27,211	/	36,270	/	35,018	/												
	うち、委託料	68,091	78	92,553	85%	104,049	87%												
	合計	239,351	/	308,856	/	317,289	/												
収入 (財源)	使用料	11,722		14,590		8,926													
	その他	8,402		13,926		5,172													
	一般財源	219,227		280,340		303,191													
	合計	239,351		308,856		317,289													
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和5年度)															
<p>1. 人に係る経費 展覧会開催や美術作品の調査研究・収集保存など企画運営業務に10人、施設の日常的な管理や貸館対応、広報など総務経營業務に8人の職員が従事しています。企画運営業務には学芸員等の専門員を配置しているほか、1日の開館時間が本庁と比較して長く、また休館日が少ないことから、1日2交代のシフト制とすることで、開館時間は常時一定人数の職員を配置するようにし、運営に支障をきたさないようにしています。</p> <p>2. 企画運営費 年に3回程度開催する大型の展覧会開催にかかる経費及び、集客を図るための新聞・テレビ等への広告掲出に一定の経費を要しています。</p> <p>3. 施設の維持管理費 収蔵品や展示品の適切な管理のため、24時間の空調運転・温湿度管理が必要となり、これに伴う光熱費及び、機器の保全を図るための委託料を要しています。また、貸館受付やチケット販売等の総合案内業務、展示室の監視業務等に一定の経費を要しています。 ※令和4年度から通年ベースでの営業となったため、警備・清掃業務や総合案内業務等の委託料や光熱水費が増えています。</p> <p>4. その他 その他収入の主なものは助成金や建物貸付収入(自動販売機、多目的室)です。</p>				<table border="1"> <caption>支出経費の構成割合(令和5年度)</caption> <thead> <tr> <th>経費種別</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人に係る経費</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>維持管理費(委託料)</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>維持管理費(光熱水費)</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>企画運営費</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>維持管理費(その他)</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>				経費種別	割合	人に係る経費	34%	維持管理費(委託料)	33%	維持管理費(光熱水費)	11%	企画運営費	18%	維持管理費(その他)	4%
経費種別	割合																		
人に係る経費	34%																		
維持管理費(委託料)	33%																		
維持管理費(光熱水費)	11%																		
企画運営費	18%																		
維持管理費(その他)	4%																		

取組の状況	
設置条例	八戸市美術館条例
運営方針等	八戸市新美術館整備基本構想、八戸市新美術館管理運営基本計画、八戸市新美術館中期運営計画
取組の内容	<p>1. 施設の特徴 「ひと」が活動する空間を大きく確保し、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として旧美術館からの建替・新築で開館し、人を育み、まちや暮らしをより豊かなものとするための展覧会やプロジェクトを展開しています。</p> <p>2. 主な事業 (1)展覧会開催・市民利用促進 当館コレクションの成り立ちや地元八戸ゆかりの作品の魅力を紹介する企画展、地元作家を中心とした収蔵品を独自の切り口で紹介するコレクション展、大人から子どもまで全国的な人気を博す地元作家の回顧展、前衛的な手法で八戸ならではの風景を表現した写真展を開催するなど、地域ゆかりの美術作品を通して、八戸の芸術文化を継承・発展させていく役割を担うほか、貸館事業を通じて、文化活動を行う市民活動を支援するとともに、他分野と連携し、魅力的な企画を行うことで、アートに興味を持つ方々はもちろん、それ以外の方々にも足を運んでもらえるよう、美術館の利用促進を図ります。</p> <p>①令和5年度入館者数 109,227人(令和5年4月1日～令和6年3月31日)</p>

取組の状況

②展覧会観覧者数

展覧会名	観覧者数	会期(日数)	備考
美しいHUG!	8,327人	R5.4.29~R5.8.28(122日)	一般500円、高校生以下無料
コレクションラボ005「奏でる工芸」	8,525人	R5.9.9~R5.12.25(87日)	観覧無料
ロートレックとバル・エポックの巴里-1900年	7,520人	R5.11.3~R5.12.25(46日)	一般1,000円、大学・高校生500円、中学生以下無料
コレクションラボ006「美の殿堂鈴木コレクション」	10,308人	R5.12.23~R6.3.18(72日)	観覧無料
【特別貸館】藤井フミヤ展 Fumiyart2024	12,681人	R6.1.20~R6.3.25(58日)	一般1,500円、高・大・専900円、中学生以下無料
コレクションラボ007「大久保景造と八戸文化」	1,096人	R6.3.23-7.8(93日) ※R6.3.31時点	観覧無料

③展覧会観覧者への割引制度

未就学児、小中学生は観覧無料

(八戸市と連携中枢都市圏域町村(三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町))

項目	概要
かおパス	何度でも同じ展覧会を鑑賞できるフリーパス。展覧会ごとに料金を設定しており、会期内に初回登録すれば、2回目以降は当館入口に設置しているサーモカメラの顔認証システムにより認証
駐車場割引	近隣の駐車場を利用していることが分かる駐車券や駐車証明書の提示により、運転者1名分に団体料金を適用する割引
団体割引	20名以上は観覧料に割引を適用
シニア割引(市内圏域65歳以上割引)	八戸市と周辺町村にお住まいの65歳以上の方は観覧料に割引を適用
障がい者割引	障がい者手帳をお持ちの方とその付添者1名は観覧料に割引を適用

④貸館の実施状況

項目	件数	主な内容
貸館	111	書道展、絵画展、写真展、ワークショップ など

※年2回 貸館利用者説明会を実施(HPでは随時案内)

(2)各種プロジェクトの推進

美術館の特徴的な空間である「ジャイアントルーム」を拠点に、アーティストや市民等と一緒に交流しながら共同創作活動を行う各種プロジェクトを行うことで、アートを通じた出会いや学びにより、従来の立場や枠組みを超え、人を育み、アートがもたらす本質的な価値観に加え、新たな価値観(経済的価値、社会的価値)を生み出す等、まち全体の活力につなげます。

取組の状況

主なプロジェクト参加者数

ア. アートファーマープロジェクト(抜粋)

プロジェクト名	参加者数	開催日(開催期間)
きむらとしろうじんじん八戸野点プロジェクト	・プロジェクトメンバー 41人	(プロジェクト期間)R5.5~10 (野点)R5.10.7
八戸市美術館建築ツアーガイド	・プロジェクトメンバー 19人 ・ガイドツアー参加者数 各回約10人	(講座)年4回 (ガイド)毎月最終土曜日
タノミマスプロジェクト	・プロジェクトメンバー 27人	(プロジェクト期間)R5.1.29~8.28

イ. 学校連携プロジェクト

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
学校連携ラボの設置	R5.10.16	美術館内に学校連携プロジェクトチームの活動の場となる「学校連携ラボ」を設置
出張ワークショップを実施	R5.6.19~6.22	場所:①三条小学校、②多賀小学校、③金浜小学校 講師:タノタイガ 参加者:①53人、②33人、③12人
朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修	R6.1.29	新しい美術教育の事例として「朝鑑賞」を推進するための研修会やグループワークを実施(参加者 40人)
美術館新聞部プロジェクト	R6.1.5~R6.3.31	小学生と高校生が、新聞をつくるプロジェクト。アーティストや周辺店舗への取材を行い記事を作成し、新聞第3号を発行(参加者 13人)

ウ. アートの学び事業

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
三校連携創作体験ワークショップ	R5.10.29~R6.3.31	八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部、八戸工業大学、八戸工業高等専門学校の3校の教員が講師となり、美術館の展覧会に関連したワークショップなどを開催(開催数:5回、参加者数:81人)
学生×社会人のアートの学び実践講座事業	R5.9.16~R6.3.31	外部講師を招聘し、学生と一般参加の社会人が一緒にワークショップやディスカッション等を行いながら、個々の違いを楽しめるような創作キットを考える講座を開催。(開催数:5回、参加者数42人)
美術館のアクセシビリティ向上事業	R5.6.7~R6.3.31	・保育士を目指している学生が運営する託児スペースを8日間開設。(利用者数50名) ・休館日に小さな子供とその家族が気兼ねなく鑑賞できる日「ベビーファーストデー」を2日間開催。(利用者数44名)

エ. その他プロジェクト(抜粋)

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
ヨルニワ	R5.6.10、R5.10.14	八戸市更上閣・八戸ポータルミュージアム「はっち」・八戸市美術館を会場に、キッチンカーや飲食屋台と音楽ライブを楽しむ屋外イベント。
展覧会「ロートレックとベル・エポックの巴里-1900年」関連企画アートミュージアム晩餐会	R5.11.29	展覧会「ロートレックとベル・エポックの巴里-1900年」関連企画で、市内ホテルやソムリエにコースメニューを企画提供していただくとともに、社交ダンスやトークイベントなど、当時の雰囲気を感じてもらおうイベント。(参加者数40名)
あそらぼ! 創作パズル・ゲーム	R5.12.23~R6.1.14	八戸在住のからくり作家・高橋みのる氏をはじめとする「あそらぼ! 実行委員会」による、遊びをテーマにした体験型展示、ワークショップ及び講演会(会期中の来場者数5,907人)

(3) 学校の見学の受入れ(令和5年度実績)

学校の見学の受入れを行っています。美術館スタッフによる館内案内や、展示作品の対話的な鑑賞サポートを行っています。

項目	受入校数	生徒数	内訳
社会科見学	25校	752人	市内:21校 665人/市外:4校 87人

(4) 視察の受入れ(令和5年度実績)

県内外の市町村職員、議会関係者、美術館、大学等の視察の受入れを行っています。

項目	受入件数	人数	内訳
視察	55件	577人	・都道府県、市町村:15件 188人 ・県議会、市議会:5件 38人 ・設計、建築:5件 50人 ・文化団体:3件 31人 ・高校:2件 28人 ・大学:16件 191人 ・美術館:6件 34人 ・その他:3件 17人

取組の状況

(5)共創企画

企画名	開催日	内容
街なかアートマップの作成	令和5年10月発行	八戸クリニック街かどミュージアム※との協働により、中心街及び周辺地区で、アート(文化)に関わるギャラリーの併設や展示、積極的な文化活動などを行っている店舗、施設の情報収集を行い、マップ、リーフレットやHPの作成等、情報発信を行う事業を開始。 ※八戸クリニック街かどミュージアム:はちのへ文化のまちづくりプランの拠点施設であり、八戸市美術館の共創パートナー。

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位:千円)

支出	人に係る経費	98,927
	企画運営費	55,563
	施設の維持管理費	134,009
	うち、光熱水費	32,833
	うち、委託料	88,231
	合計	288,499
収入(財源)	使用料	11,746
	その他	9,167
	一般財源	267,586
	合計	288,499

(1)施設維持管理について

①施設維持管理の状況

美術館は、地域にゆかりのある作家の美術品を中心に、約3,000点の収蔵品を保管する収蔵庫を有しています。これらの収蔵品は、後世へ継承していかなければならない「地域の宝」であり、適切に保管する必要があります。このため、収蔵庫内は作品に合わせて24時間温湿度管理を維持しており、劣化した作品は修復するなど適切な対応が求められることから、一定の維持管理費を要しています。

また、他館から貴重な作品を借用して展示する場合は、展示室内の温湿度など空気環境のデータ提出を求められることから、展覧会開催の有無に関わらず、通年で展示室内の空気環境を保つ必要があり、ここにも一定の維持管理費を要しています。

美術館は令和3年11月に開館し、令和4年度から通年ベースでの営業となったため、警備・清掃業務や総合案内業務等の委託料や光熱水費が増えています。

②維持管理費削減の取組

全館でLED照明を設置し、高効率空調設備を導入するなど省エネルギー化が図られています。また、節電を意識的に行ってきたこともあり、当初見込みよりも光熱水費を抑えられていることから、引き続き、光熱水費の抑制に努めます。

(2)財源の見通しについて

貸館利用のように施設を占有する利用者からは受益者負担として施設使用料を徴収しています。一方で、収蔵品の保存や展覧会の企画・開催にかかる経費には、観覧料を徴収して財源に充てていますが、収蔵品は広く市民の財産であること、また、誰もが容易に美術作品を鑑賞したり、文化芸術活動に参加できる機会を提供する必要があるという観点から、市税や地方交付税などの一般財源を充てることで、観覧料を低廉なものとしています。また、建物貸付収入や、各種補助金・助成制度を活用するなど、一般財源以外の財源確保に努めていきます。

<参考写真>



<ヨルニワ>



<展覧会>



<きむらとしろうじんじん八戸野点>



<タノミマス出張ワークショップ>



<朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修>



<市民の貸館展示>